

和歌山病院での実習を終えて



金光 達也

今回、和歌山病院で 2/27,2/28 の 2 日間にかけて病院実習をさせていただきました。

今回の実習ではセミナーが中心で適宜実際の現場や器具の見学をさせて頂くというものでした。これは南方院長が、実際の臨床的な実践を行うよりまず基礎的な知識の導入を入れた方がよいとの意図で組んでくださったカリキュラムでしたが、私はこのカリキュラムで大変良かったと思いました。既に約 1 年間臨床実習を回ってきた 5 回生にはどうだったかは分かりませんが、まだ臨床実習始まったばかりの身としては今回のセミナーでのお話はとても参考になりました。

駿田副院長の結核のセミナーは、分かりやすい導入から結核の病態についてのお話までとても参考になりました。工事中とのことで結核病棟内を見られなかったのは残念でしたが、外観は見学させていただいたので、雰囲気だけでも感じる事が出来ました。

南方院長の画像読影のセミナーは、とても参考になりました。今まで画像に対する理解は殆どなく、試験対策に暗記はするものの理解までは到底及んでいませんでした。そんな、勉強する足がかりすら見えていなかった状況から、南方院長のセミナーを聞いてこれからの勉強の確固とした足がかりを得られたと実感しました。「レントゲンは白黒反対で奥行きが反映される影絵」という導入から始まり、レントゲンの線ができる仕組み、胸腔外と胸腔内で我々がこれから注目すべき部位はどこなのか。これらを論理的にかつ体系的に説明していただいたので、非常にわかりやすかったです。また、分からなくても立ち止まってこちらが理解してくれるまで噛み砕いて説明していただけたので、とても楽しいセミナーだったと感じました。南方先生が仰っていた通り、これからの勉強の潤滑油となりうるであろう、とてもいい教育を頂けたと思います。

柳本診療部長のセミナーでも、実際に呼吸不全患者に使用するベンチュリマスクやカニューラなどの器具を実際に見せて頂き、どのような仕組みでどうしてこのような形状をとっているのか、それぞれのマスクの適応と使用用途など、細かく説明していただきました。実際の酸素供給器を目で見て触れながらどのように動かすかまで見るのは初めてでとても新鮮でした。

1 日目の晩には南方院長に夕食もご馳走いただき、楽しくお話しさせていただきました。今回の実習は全体を通してとても刺激的なもので、かつとても楽しいものだったと感じま

した。これから始まる臨床実習において必要な「考える力」というものに対して、とてもいい刺激を与えてもらったと思います。これから始まる臨床実習、ここで得た貴重な刺激と経験を存分に活かしたいと思います。

最後に、今回とても有意義な病院実習をさせて頂きました。南方院長を始め、駿田副院長、その他の先生方や事務の方々にこの場をお借りして謝辞を申し上げたいと思います。2日間にわたり、本当にありがとうございました。またの機会がありましたら、その時も何卒よろしくお願い致します。